

フォーサム2015大阪

ランチョンセミナー13

日時▶2015年7月11日(土) 12:00~13:00

会場▶第9会場 グランフロント大阪 8F
ナレッジキャピタルカンファレンスルーム C04

チューブ 挿入手技 博覧会

座長のことば

涙道ステントには様々なものがあるが、日本では主に自己保持型チューブを用いることが標準となっている。材質にはシリコンやポリウレタンなどがあり、長さや形状にも個性がある。また、様々な涙道手術でチューブが使用されているが、その挿入手技も多彩であり、現在のところ少なくとも5つの手技がある。術者によっては好みの手技ひとつだけに頼っている場合もあるが、状況によって手技を使い分けしている術者も多い。また、各手技には相性のよいチューブもあり、手技の使い分けとともにチューブの使い分けも行われている。

今回、各チューブ挿入手技の名人5名をお迎えした。それぞれの手技をビデオ供覧し、チューブの使い分けやそれぞれのチューブの個性などを語りあていただく。自己保持型チューブは日本文化の一つであり、今後は世界に向けて発展していかなければならない。しかし同時に、従来からの固定を要する長いチューブの有用性も知っておく必要がある。

今、ここでチューブ挿入手技とチューブの種類を総覧し、これからの課題や涙道ステントの使い方などについて考えたい。



座長

堀 裕一先生

東邦大学医療センター
大森病院眼科 教授



座長

演者

Toru Suzuki

Retrograde Sheath Guided
Intubation Using A Pig Tail
Probe: R-SGI (逆行性SGI)

鈴木 亨先生

医療法人鈴木眼科クリニック 院長



演者

Satoshi Gotou

G-Sheath-Guided Intubation:
G-SGI (SGI:後藤式)

後藤 聡先生

東京慈恵会医科大学
葛飾医療センター眼科



演者

Fumio Higaki

Direct Silicone Intubation: DSI
(直接的チューブ挿入術)

檜垣 文雄先生

ひがき眼科 院長



演者

Akemi Iwasaki

Lidocaine Jelly Expanded
Intubation: LJEI

(リドカインゼリーを使ったチューブ挿入法)

岩崎 明美先生

宮久保眼科



演者

Manabu Sugimoto

Sheath-Guided Intubation: SGI
(シース誘導チューブ挿入術)

杉本 学先生

医療法人すぎもと眼科 院長

共催: 第4回日本涙道・涙液学会総会
東レ株式会社・株式会社ニデック